

グッドプラクティスから見える授業改善のポイント

埼玉県学力・学習状況調査の結果をもとに、学力を特に伸ばしている市内小・中学校教師の同調査の教職員調査回答状況を分析した結果、日々の授業において次のような拘りをもっていることが分かった。そこで、それらを効果的な指導方法(グッドプラクティス)とし、授業改善のポイントとして全小・中学校で共有化を図った。

・児童生徒の学力を特に伸ばしている教師の共通点（令和5年度埼玉県学調・教職員調査より）

○本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせている

○評価規準に基づき、キャッチ&レスポンスができています

○目標と指導と評価を一体的に捉え実践している

○一人ひとりの伸びや変容をつかみ、積極的に認め称賛している



1 単元を見通した授業づくり

- ・単元とは、単なる内容や教材、活動や時間のまとまりではなく、**子供が見通しを持って数時間の学びを進められるような学習過程のまとまりである**。単に一単位時間の授業を積み上げれば単元になるわけではない。授業は一単位時間ごとに区切って行われるが、**学習者にとっては、一つのストーリーとしてつながっている**ことが望まれる。
- ・そのため、単元全体で身に付けるべき資質・能力を明確にし、単元終了時の学びの姿を意識し、目標や単元計画を立てることが重要である。そして、単元を見通した「課題」や「問うべき問い(※)」「授業の山場(※)」を設定し、深い学びにつなげていくようにする。

2 「引き出す」「つなげる」「深める」授業づくり

- ・主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善をするためには、子供の実態や理解度を把握し、考えや興味・関心を「**引き出し**」、子供の意見を他の子供に「**つなげ**」、それらを練り上げ、「**深める**」ことが重要である。



①子供の意見や考えを「引き出す」ための教師の関わり方

子供の意見や考えに対して**肯定的な接し方**（うなずき、繰り返し）を心掛ける。このことにより、子供が安心して発言できる環境づくりにつなげる。さらに、発言やグループ活動での会話の場面、デジタル上に表出される気付きなどを含め、積極的に**つぶやき**を拾う。待つことの大切さを自覚し、教師は話しすぎない。



②子供の意見や考えを他の子供に「つなげる」ための教師の関わり方

「〇〇さんがどのように考えたか、分かりますか」「〇〇さんの考えを別の言い方で言えますか」「〇〇さんの考えでいいところはどこだと思いますか」「〇〇さんがこのように考えた理由が分かりますか」など、子供の意見や考えを教師が他の子供に**つなげる**ことで、子供同士の深い学びを生むきっかけづくりをする。そうした「**想像説明**」などを行い、対話が広がるように努めていく。

③子供の意見や考えを「ゆさぶり(※)」「練り上げ(※)」「深める」ための教師の関わり方

全体での子供の発言に対し、「いいね」「がんばりましたね」といった称賛で終わらず、「なぜ?」「どうして?」や「どんなところを工夫したの?」など、**子供の思考過程を明らかにし、見方・考え方を問い返し**、「板書(※)」等で考えを可視化することで、**思考を深め、発言の価値を高める**。

【留意点】

子供の活動を適切なタイミングで止め、全体指導を入れることも必要である。ただし、子供の学びの流れを止める可能性があることに十分留意する。

(例)

- ・個の発言を価値付け、学級全体に広げたいとき
- ・児童生徒の話し合いの視点がずれてきたとき



3 キャッチ&レスポンスによる授業づくり

- ・教育的タクトの感度を上げるために、目標に即し、子供たちの学習状況を捉え（**キャッチ**）、個々・グループ等への机間指導における声かけ（**レスポンス**）を充実させる。そのために、深い教材研究が極めて重要となる。また、本時主義に陥らず単元を通して**評価内容・方法、タイミングは授業前に設定する**。

(※) は、授業づくりにおいて大切にしたい言葉



グッドプラクティス
R2～R6



R2



R3



R4



R5



R6